令和８年度　清瀬市少年スポーツ交流大会第 63 回野球大会報告書

開催日時　令和８年 10 月 10 日（土）　午前８時から令和８年 10 月 10 日（土）午後１時まで

開催場所　下宿第二運動公園野球場、清瀬市内山運動公園野球場Ａ面

主　　催　清瀬市青少年問題協議会

後　　援　清瀬市教育委員会、清瀬市体育協会

主　　管　清瀬市軟式野球連盟

■参加者数　226 名

■アンケート回答数　101 件（回収率 44.7％）

１　アンケート目的及び評価方法

（１）アンケート目的

本アンケートは、努力・やり抜く力、仲間との協働、礼儀・規範意識、大会への満足度などを把握し、スポーツを通じた青少年健全育成の成果と大会運営の課題を確認するために実施した。結果は、野球連盟と共有し、今後の大会運営や日常の指導に生かす。

（２）設問と評価指標

設問	評価指標・目的
Ｑ２　最後まで、あきらめずに取り組めたか	主体性、やり抜く力
Ｑ３　試合を通じて成長したと思うこと	技術面、内面、仲間との関り（自由記述）
Ｑ４　仲間への声掛けや応援ができたか	協働、チームへの貢献
Ｑ５　挨拶、ルール、相手を大切にしたプレーができたか	礼儀、規範意識、スポーツマンシップ
Ｑ６　大会に参加してよかったか	大会への満足度

（３）評価方法・目標値

選択式設問は、肯定的な上位２選択肢の合計を「肯定回答率」とした。目安は 80％とし、競技成績ではなく、健全育成に関する意識や行動を振り返るための指標として用いる。各設問の回答数が異なるため、肯定回答率は設問ごとの有効回答数を分母に算出した。

アンケート回答は 101 件で、参加者 226 名に対する回収率は 44.7％である。回答した参加者の傾向を示すものであり、未回答者を含む参加者全体の評価と同一視しない。

（４）子どもたちへのフィードバック

アンケート結果は、勝敗を評価するためではなく、大会を通じてどれだけ人として成長できたかを振り返るために活用する。80％を超えた項目は大会全体の成果として参加者と共有し、80％に届かなかった項目が生じた場合も個人を責めるのではなく、「来年はもっと応援し合える大会にしよう」など、次の目標として共有する。

２　調査結果概要

回答者の肯定回答率は、努力・やり抜く力 94.0%、仲間への声掛け・応援 92.0%、礼儀・規範意識 98.0%、大会への満足度 96.0%で、いずれも目安の 80%を上回った。自由記述からは、打撃・守備などの技術面に加え、声を出すこと、仲間を支えること、最後まで取り組むことへの気付きが確認された。

一方、参加者 226 名に対する回収率は 44.7%にとどまった。肯定回答の割合が高いことは回答者の傾向として評価し、全参加者の成果として過度に一般化しないことが必要である。

３　主な成果

最後まであきらめずに取り組めたとの肯定回答は 94.0%で、試合に向き合う姿勢がうかがえた。仲間への声掛けや応援は 92.0%であり、出場中のプレーだけでなく、応援や声掛けを通じたチームへの貢献も認識されていた。

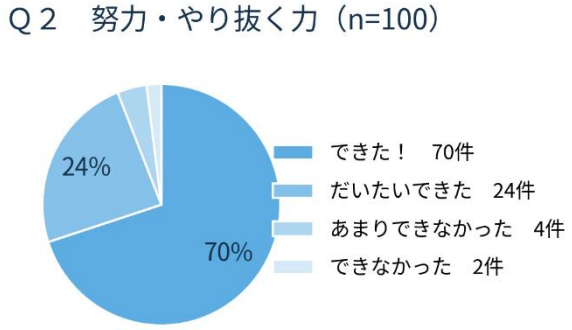
挨拶、ルールの順守、相手を大切にしたプレーは 98.0%、大会に参加してよかったとの回答は 96.0%であった。

４　設問別集計

設問・評価指標	有効回答数	肯定回答	肯定回答率	平均点
Ｑ２　努力・やり抜く力	100 件	94 件	94.0%	3.62／４点
Ｑ４　仲間への声掛け・応援	100 件	92 件	92.0%	3.65／４点
Ｑ５　礼儀・規範意識	100 件	98 件	98.0%	3.69／４点
Ｑ６　大会への満足度	99 件	95 件	96.0%	3.73／４点

※肯定回答は「できた！」「だいたいできた」又は「とても思う」「思う」の合計。平均点は４段階で算出。未回答は設問ごとの有効回答数から除外。

設問別回答割合



Ｑ２　努力・やり抜く力

有効回答 100 件のうち、「できた」が 70 件（70%）、「だいたいできた」が 24 件（24%）で、肯定的な回答は 94%となりました。大会を通じて、多くの参加者が努力することや最後まで取り組むことを実感できたと考えられます。一方、否定的な回答も 6%あるため、勝敗だけでなく、挑戦した過程や粘り強さを具体的に認める声かけを続け、次の意欲につなげることが大切です。

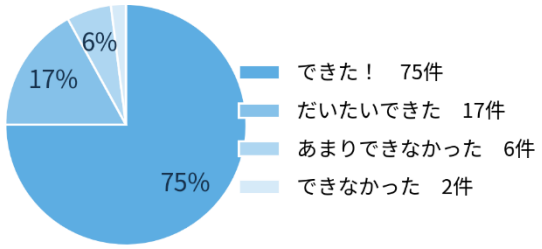
Ｑ３　試合を通じて成長したと思うこと（自由記述）

自由記述は 86 件。内容は、打撃や守備、投球・制球などの技術面、声出しや仲間への声掛け、チームで協力すること、集中して最後まで取組むことに大別できる。試合に出られなかった参加者からも、応援や声出し、仲間の守備を学んだことを成長として挙げる回答があった。

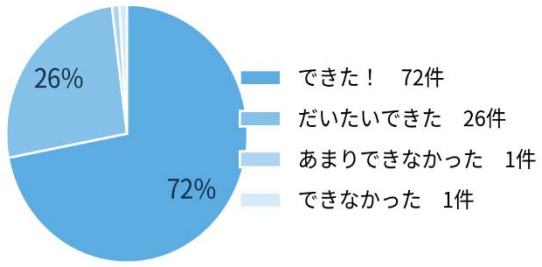
一方で、試合に出られなかったことや、思うようなプレーができなかったことを記した回答もあった。競技機会だけでなく、応援・役割・仲間への支援も大会での成長として伝わるよう、指導者や運営側からの声掛けが重要である。

また、清瀬小学校のグラウンドが工事により使用できなくなることを踏まえ、近隣グラウンドの確保を求める意見が寄せられた。学校施設の利用見通しを確認し、関係部署・団体で共有する必要がある。

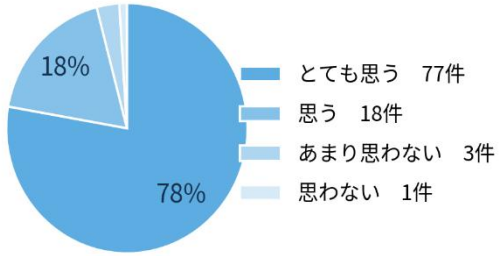
Ｑ４　仲間への声掛け・応援（n=100）



Ｑ５　礼儀・規範意識（n=100）



Ｑ６　大会への満足度（n=99）



Ｑ４　仲間への声掛け・応援

有効回答 100 件のうち、「できた」が 75 件（75%）、「だいたいできた」が 17 件（17%）で、肯定的な回答は 92%となりました。多くの参加者が、仲間を応援したり声を掛け合ったりすることの大切さを感じたと考えられます。一方、否定的な回答も 8%あることから、チーム内で互いの頑張りを認め合う機会を設けるなど、応援や協力の経験を広げる工夫が望まれます。

Ｑ５　礼儀・規範意識

有効回答 100 件のうち、「できた」が 72 件（72%）、「だいたいできた」が 26 件（26%）で、肯定的な回答は 98%に達しました。ほとんどの参加者が、礼儀やルールを意識していたことが伺えます。スポーツを通じて、相手や仲間、運営に関わる人を尊重する姿勢を学ぶ機会になったと考えられ、今後も開会式や試合中の具体的場面で、その大切さを伝えていきたいです。

Ｑ６　大会への満足度

有効回答 99 件のうち、「とても思う」が 77 件、「思う」が 18 件で、肯定的な回答は 95 件、約 96%となりました。多くの回答者にとって、満足度の高い大会になったと考えられます。一方、「あまり思わない」「思わない」も計 4 件あり、運営や会場、進行などに改善の余地がないか確認することが大切です。

5　回答者の学年構成

回答者 101 名は全員が小学生で、学年別では６年生 27 名、４・５年生各 23 名、３年生 19 名、２年生８名、１年生１名であった。学年ごとの回答者数に差があり、特に１・２年生は少数のため、学年別の比較は行わず、全体傾向の参考情報として扱う。

学年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	合計
回答者数	１名	８名	19 名	23 名	23 名	27 名	101 名

6　総合評価

回答者の範囲では、努力、仲間への声掛け・応援、礼儀・規範意識、大会への満足度の各項目で肯定的な回答が多く、野球を通じて技術面とともに、チームの一員として関わる経験が得られたことがうかがえる。自由記述では、試合出場の有無にかかわらず、応援や声出し、仲間との協力を成長として挙げる回答も確認された。

ただし、回収率は 44.7％であり、未回答者の意見は結果に反映されていない。数値は回答者の評価として示し、参加者全体の傾向を判断するには、回収方法の改善と回答数の確保が必要である。

7　今後の改善点

（１）アンケートは大会当日に各チームへ配布し、最終日までに必ず提出するよう依頼した。また、本部席に回収ボックスと鉛筆 60 本を用意し、提出しやすい環境を整えた。しかし、参加者 226 人に対する回収率は 44.7％にとどまり、提出を約束していたにもかかわらず未提出となったチームもあった。今後は、チーム別の配布数・回収数を記録して提出状況を把握するとともに、期限前の再周知や未提出チームへの個別確認を行い、回収率の向上につなげる。

（２）各チームの提出担当者と提出期限を事前に確認し、未提出時の連絡方法を明確にする。大会後に複数回の依頼が必要となったことを踏まえ、提出状況を一覧で管理する。

（３）回答に時間を要しない設問数・表現とし、試合後に記入時間を確保する。紙とオンラインのどちらかを選べる方法も検討する。

（４）自由記述では、技術面だけでなく、応援、仲間への声掛け、役割を果たした経験も振り返れる設問にする。

（５）グラウンドの利用見通しに関する意見を関係部署・団体へ共有し、代替利用場所の確保について情報収集する。

8　まとめ

（1）大会の目的と成果

本大会は、野球の技術や勝敗だけでなく、最後まで取り組む姿勢、仲間を応援する気持ち、礼儀やルールを守る意識を育む機会として実施した。アンケート回答者では、各項目の肯定回答率が 92.0%から 98.0%となり、自由記述にも技術面と仲間との関わりの双方に関する成長が表れていた。

（2）アンケート回収状況

参加者 226 名に対して回答は 101 件で、回収率は 44.7%であった。各チームへ複数回提出を依頼し、10 月 13 日に提出予定との連絡があったチームにも確認したが、集計時点で未提出が残った。回収率が十分でないため、結果は回答者の傾向として扱う。次回は大会当日の回収を基本とし、チームごとの提出状況を確認できる仕組みを整える。

（3）大会全体の進行等

大会は晴天の下、関係団体、参加チーム及び保護者の協力を得て実施し、予定の日程を終えることができた。開催に当たり、清瀬市体育協会、清瀬市軟式野球連盟、参加チーム、保護者をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げる。

（4）総括

第 63 回清瀬市少年スポーツ交流大会野球大会では、回答者から、努力、仲間への応援、礼儀・規範意識、大会への満足について肯定的な評価が得られた。今後は、参加者全体の意見をより確実に把握できる回収方法を整えるとともに、自由記述で示されたグラウンド確保に関する意見も関係者間で共有し、安全で参加しやすい大会運営につなげていく。